

(3) TEACCH 療育システムにおける親と専門家の協働に関する研究

川崎医療福祉大学大学院医療福祉学専攻修士課程 ○池田 滋
川崎医療福祉大学医療福祉学科 寺尾 孝士
川崎医療福祉大学医療福祉学科 諏訪 利明
川崎医療福祉大学医療福祉学科 小田桐早苗

【要 旨】

TEACCHにおける親と専門家の協働は、①専門家がトレーナーとして機能し、親がトレーナーとなる関係②親が自分の子どもの専門家としての関係③精神的に支え合う関係④地域社会に対して実質的なサービスを提供するよう専門家と親が協力して働きかける関係がある。本研究では①～③までを行い、親の変化を研究した。

TEACCHの療育プログラムにしたがって、療育室と観察室の間にマジックミラーを設置し、療育室で我が子が療育を受けている様子を、親は観察室で親担当セラピストに説明を受けながら見るセッションを合計8回行った。療育室で、我が子が、子担当の専門家によって療育を受けている姿を、親は観察室から親担当の専門家から我が子の自閉症の特性についての説明を受け、対応の仕方を実際に見ながら説明を聞くことで、我が子の子育てのストレスが変化すると考えた。そこで、「親の自閉症に対する特性の理解の変化」、「親の子どもへの対応の仕方の変

化」 「親の子どもを育てる上でのストレスの変化」を考察することを研究目的とした。

本発表では、「母親の特性理解の変化」の研究結果について報告を行う。研究方法として半構造化インタビューを実施し、検討した。インタビューは3回行った。1回目のインタビューでは、母親は「我が子の特性を把握できていない」状況となり、4回セッション終了後の第2回インタビューでは、母親は「我が子の行動を自閉症の特性とつなげて理解しつつある」状況となり、全8回セッション終了後のインタビューでは「具体的な我が子の行動と自閉症の特性を結びつけて言語化できる」までに変化した。

これは、療育室で子担当セラピストが療育している様子を、観察室から観察しながら親担当セラピストの説明を受けたこと、観察室から我が子の様子を見たことをもとに、親の質問に答えた結果と考えられる。